

## 「グローバル地磁気観測分科会活動報告」

当分科会は、日本学術会議地球電磁気研究連絡委員会・地磁気観測小委員会と協力して、(1) 地磁気観測の将来計画策定、(2) IAGA第XI回地磁気観測データ処理技術会議2004日本開催の企画実行、(3) 日本学術会議、大学、各機関など変革の動きの情報交換を主な目的として活動をおこなっている。平成14年度以降3回行われた分科会の議事録をまとめ活動報告としたい。

日 時：平成14年5月29日12:00～13:40

場 所：国立オリンピック記念青少年センターC503会議室

出席者：湯元清文（九州大学）、西田泰典（北海道大学）、岡野章一（東北大学）、服部克巳（千葉大学）、林 幹治（東京大学）、歌田久司（同）、田口 真（国立極地研究所）、本蔵義守（東京工業大学）、長尾年恭（東海大学）、佐柳敬造（同）、塩川和夫（名古屋大学）、田中良和（京都大学）、家森俊彦（同）、亀井豊永（同）、能勢正仁（同）、大志万直人（同）、行武 毅（海洋科学技術センター）、児玉哲哉（宇宙開発事業団）、中塚 正（産業技術総合研究所）、志茂久雄（国土地理院）、石原 操（同）宮崎清博（同）、杉浦正久（通信総合研究所）、國武 学（同）、山田雄二（地磁気観測所）、牧 広篤（同）

報告；

(1) 第XI回地磁気観測データ処理技術会議地磁気観測WS2002に出席して湯元委員長、地磁気観測所山田氏から出張の報告があった。

議題；

(1) IAGAの第XII回地磁気観測データ処理技術会議地磁気観測WS2004の日本開催について協議を行い。組織委員を決めるとともに、開催期日は2004年11月9日から17日までとすること、開催場所は柿岡、地磁気観測所とつくば市の研究交流センターとすることが決まった。この内容でファーストサーキュラーが送られる。詳細な内容については今後、組織委員会で検討することとなった。

(2) 「地磁気観測 問題と果たすべき役割」についての報告書に関し、現在様々な動きがあることに対応し、委員会部内の認識の共有化をはかるため、最近の動きに対応したリバイスをまとめることとなった。

(3) 日本学術会議、大学、各機関での重要な動きについて情報交換を行った。

日 時：平成14年11月13日12:00～13:20

場 所：電気通信大学総合研究棟601会議室

出席者：湯元清文（九州大学）、歌田久司（東京大学地震研究所）、西田泰典（北海道大学）、岡野章一（東北大学）、林 幹治（東京大学）、松岡彩子（宇宙科学研究所）、田口 真（国立極地研究所）、塩川和夫（名古屋大学太陽地球環境研究所）、荒木 徹（京都大学）、家森俊彦（同）、亀井豊永（同）、大志万直人（京都大学防災研究所）、児玉哲哉（宇宙開発事業団）、中塚 正（産業技術総合研究所）、杉浦正久（通信総合研究所）、菊地 崇（同）、長妻 努（同）、志茂久男（国土地理院）、長屋好治（海上保安庁）、吉田明夫（地磁気観測所）、山田雄二（同）、藤井郁子（同）、牧 広篤（同）

議事；

(1) IAGAの第XI回地磁気観測データ処理技術会議地磁気観測WS2004のファーストサーキュラーについて協議を行い、概ねその内容を確認し、主催者の名義使用等についての手続きを行い、英文等の修正を加えた上で、年内に発送することとした。

(2) 上記ワークショップの開催に関し、国内組織委員会の下に、5つの部会を置いて具体的な検討にあたることとし、その構成を決めた。

(3) 固体地球物理グローバル観測ネットワーク小委員会の重要な動きについて情報を受け、本委員会でも今後の活動に向けた検討を行い、「地磁気観測 問題と果たすべき役割」についての報告書のとりまとめにかかることとした。

日 時：平成15年5月29日12:15～13:40

場 所：幕張メッセ国際会議場202会議室

出席者：湯元清文（九州大学）、西田泰典（北海道大学）、岡野章一（東北大学）、田口 真（国立極地研究所）、長尾年恭（東海大地震予知研究センター）、服部克巳（千葉大学）、荒木 徹（京都大学）、家森俊彦（同）、亀井豊永（同）、吉村令慧（京都大学防災研究所）、児玉哲哉（宇宙開発事業団）、中塚 正（産業技術総合研究所）、山崎俊嗣（同）、杉浦正久（通信総合研究所）、菊池 崇（同）、國武 学（同）、中川弘之（国土地理院）、小野寺健英（海上保安庁）、牧 広篤（気象研究所）、角村 悟（気象大学校）、吉田明夫（地磁気観測所）、徳本哲男（同）、山田雄二（同）、藤井郁子（同）

議事；

(1) 第11回 IAGA 地磁気観測国際ワークショップについて、国内組織委員会の各部会から準備状況について報告され、それをもとに今後の作業内容を確認するとともに作業スケジュールを決定した。

(2) 地磁気観測についての今期の報告書を、日本学術会議地球電磁気研究連絡委員会の報告書案「21世紀の地球電磁気学」と整合をとる形でまとめることとした。

以上の会議をふまえて、以下の国際ワークショップが企画・準備されつつある。

- 会議名：第11回 IAGA 地磁気観測国際ワークショップ  
欧文 XIth IAGA Workshop on Geomagnetic Observatory Instruments, Data Acquisition and Processing
- 期日：2004年11月9日（火）～17日（水）
- 場所：測器比較セッション [ 9日（火）～12日（金） ]  
気象庁地磁気観測所（茨城県新治郡八郷町柿岡595）  
学術講演セッション [15日（月）～17日（水） ]  
文部科学省研究交流センター（茨城県つくば市竹園 2-20-5）
- 目的：地磁気観測装置の国際比較による精度の確保並びに地磁気観測のあり方とその利用に関する検討。
- 共催：IAGA、日本学術会議地球電磁気研連、地球電磁気・地球惑星圏学会、気象庁地磁気観測所
- 参加国：日本、中国、南アフリカ、ナイジェリア、マダガスカル、エジプト、ブラジル、メキシコ、米、カナダ、英、独、仏、オランダ、デンマーク、フィンランド、スペイン、ハンガリー、スロバキア、ウクライナ、ロシア、ニュージーランド、他
- 国際プログラム委員会；Hisashi Utada (Chair, ERI, Tokyo)、David Kerridge (Advisory, BGS, Edinburgh)、Peter Crosthwaite (AGSO, Canberra)、R.V. Iyengar (IIG, Mumbai)、Hans-Joachim Linthe (GFZ, Niemegek)、Larry Newitt (GSC, Ottawa)、Jean Rasson (RMI, Dourbes)
- 国内組織委員会；湯元清文（委員長）、西田泰典、岡野章一、歌田久司、利根川豊、塩川和夫、家森俊彦、大志万直人、松岡彩子、田口 真、志茂久男、小野寺健英、吉田明夫、五家建夫、菊池 崇、中塚 正、亀井豊永